

県民の皆さんの取組状況

順不同

取組団体名	取組事例
BPW クラブ和歌山	<ul style="list-style-type: none"> ★ イコール・ペイ・ディ広報活動(5月21日)(4名) 関係機関へのアピール訪問(和歌山県庁等) ★ 第11回日本BPW連合会総会(オンライン)(5月31日) 統一テーマ:SDGsの実現に向けて女性力を発揮しよう! サブテーマ:「男女格差を解消するために、私たちが今できることを実行しよう」 ★ 近畿ブロック研究会・《ヤングスピーチコンテスト》(10月26日)(3名+1名) ★ 例会(毎月第3土曜日 13:30~15:00) <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月18日(5名) <ul style="list-style-type: none"> ①日本BPW連合会2021年総会・和歌山大会準備 ②和歌山クラブ総会打ち合わせ ③新年度事業の検討 ④イコール・ペイ・ディの広報活動について ⑤女性差別撤廃条約選択議定書のすみやかな批准を求める署名活動への協力について ・ 6月20日 日本BPW連合会2020年度総会(書面開催) ・ 7月18日(8名) 人権フェスタ打ち合わせ テーマ:「女性の管理職を増やそう~なぜかしら?この格差」 ・ 8月22日(7名) <ul style="list-style-type: none"> ①卓話「連合和歌山女性委員会の活動 ~自分らしく輝き続けられる働き方~」 講師:南方 三起子 さん(連合和歌山女性委員会担当) ②連合和歌山との意見交換会打ち合わせ ③10月例会のオープン講座(学習会)打ち合わせ ・ 9月19日(6名) <ul style="list-style-type: none"> ①日本BPW連合会2021年総会・和歌山大会準備 ②オープン講座「SDGs 基本のキ」学習会打ち合わせ ・ 10月17日(10名+15名) オープン講座「SDGs 基本のキ」学習会 講師:新田 和宏 さん(近畿大学生物理工学部 教養・基礎教育部門 准教授) ・ 11月21日(8名) 卓話:東方 貴子 さん(海南市議会議員(二期目)/副議長、 和歌山女性議員の会) ・ 12月19日(6名) <ul style="list-style-type: none"> ①日本BPW連合会2021年総会・和歌山大会準備 ②連合和歌山との意見交換会打ち合わせ ・ 1月30日 【BPW】内閣府共催事業「リスクマネジメントとジェンダー平等」 Zoom参加

取組団体名	取組事例
BPW クラブ和歌山 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2月29日(7名+7名) 連合和歌山女性委員会との意見交換会 テーマ:「パワーハラスメント」 ①弁護士(会員)による基調講演「パワーハラスメントとその対応策 について」 ②グループ別ロールプレイ(2事例) ③グループ発表および意見交換会 ・ 3月27日(5名) ①日本BPW連合会2021年総会・和歌山大会準備 ②新年度事業について ③イコール・ペイ・デイ本年度の取組みについて 《その他》 認定NPO法人日本BPW連合会2021年総会・和歌山大会準備実行委員会開催 6回開催
GEはしもとサピュイエ	<ul style="list-style-type: none"> ★ 毎月1回例会を実施 ★ 女性の居場所事業 サピュイエほっとサロンの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月30日 ステイホームから見えてきたこと ・ 12月3日 みんなで語り合いませんか 自分の居場所 ・ 2月17日 言いたいこと言えてますか ★ 市内中学校にてデートDV防止授業を実施(橋本市と協働) <ul style="list-style-type: none"> ・ 12月11日 橋本市立紀見北中学校 2年生2クラス ・ 1月12日、14日、19日 橋本市立橋本中央中学校 3年生3クラス ★ 橋本市「まなびの日」の啓発活動は中止 ★ 和歌山県性暴力被害者支援ボランティア養成講座に参加 ★ 和歌山県DV被害者支援ネットワーク会議 研修の視聴
HML(ハッピーママライフ)	<ul style="list-style-type: none"> ★ 御坊市教育委員会「子どもへの暴力防止」委託事業実施 御坊市内の小中学生にCAPワークショップを実施 ★ 児童虐待防止月間に啓発を兼ねたキフパンの販売 紀の川市パン・ド・パニエ協力 ★ 子どもへの暴力防止啓発リーフレットとポスターの作成 県内の支援者、支援団体の援助を受け、リーフレットとポスターを作成。御坊市、広川町の小学校にて配布 ★ チーム紀伊水道交流会開催に協力 セクシャルマイノリティとその理解者をつなぐための会に参加協力
ITO☆WINN	<ul style="list-style-type: none"> ★ 啓発活動 ①笠田公民館サークル発表会(10月21日~26日) <ul style="list-style-type: none"> ・「雨のように降る暴力を防ぐためにみんなで傘を作ろう」をテーマに紙のパープルリボンを通り傘に貼り付けて展示。来場者にそれぞれリボンを貼ってもらった。 ・ポスター、ITO☆WINN制作の男女共同参画短歌・替え歌展示 ・啓発チラシ、書籍(DVあなたは悪くない、もしかして、デートDV?知ってほしいな、ホントに大切なコト、イヤ!!っていいんだよ。

取組団体名	取組事例
ITO☆WINN (つづき)	<p>性暴力って何だろう?、お節介先輩からのお節介アドバイス他)の配布</p> <p>★ 総会・定例会(毎月第4木曜日)開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報及び旬の出来事、それぞれ参加の講演会・研修会の情報共有。レジュメ・議事録を毎回発行し、全員で情報共有。 ミニ学習:無戸籍の子供達・・・参考映画「誰も知らない」 ミニ学習:アフターピルについて ミニ学習:「母親ならポテトサラダくらい作ったらどうだ」・・・ポテト論争について ミニ学習:上西充子・・・呪いの言葉の解き方 ミニ学習:ノブレス・オブリージュとは ミニ学習:杉田水脈衆議院議員の「女性はいくらでも嘘をつけますから」、「LGBTの彼ら彼女らは子供を作らない、つまり生産性がない」などの発言について ミニ学習:コロナ禍においての女性の自殺、貧困、子供たちへの影響など <p>★ かつらぎ町 WHP(かつらぎ町の女性による人権と平和を考える会)に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議、研修会及び理事会に代表参加
JA和歌山中央会	<p>★ JA女性役員研修会の開催(8月)</p> <p>参加者:JA女性役員25名</p> <p>内容:情勢報告、講義</p> <p>★ 県女性会と中央会・連合会役員との対話集会の開催(12月)</p> <p>参加者:女性会役員他</p> <p>内容:女性会活動、JA事業他</p> <p>★ JAへの女性参画促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の運営参画県域指標にもとづく参画促進 正組合員加入:50% 総代への就任:30% 理事への登用:15%
ウィメンズスペース 花	<p>★ 定例会(学習会)の開催(月1回)</p> <p>★ DV被害者、性暴力被害者に関する講座への参加</p>
ウィメンスタディズ熊野	<p>★ 定例学習会(月1回)</p> <p>パープルリボン熊野(熊野市)との不定期学習会</p> <p>★ DV被害者支援・性暴力被害者支援・家庭支援</p> <p>電話及び面接、同行支援</p> <p>★ 講師派遣:DV防止講座、デートDV防止講座、人権講座</p> <p>デートDV防止講座:神倉小学校、王子ヶ浜小学校、東海南中学校</p> <p>人権講座:神倉小学校、NPO法人熊野</p> <p>★ 和歌山県及び新宮市の街頭啓発への協力</p> <p>★ 関係団体とのネットワーク(勉強会・イベント企画等の協力、参加)</p>
つばさの会・和歌山	<p>★ つばさの会・和歌山 総会(6月6日(土))</p> <p>(本来は4月11日(日)に開催予定だったが、Covid-19の影響で約2ヶ月延期して開催)</p> <p>★ 11月21日(土)に開催予定だった「人権フェスタ」に参加申し込みをしたが、状況が改善されないということで、中止になった。</p> <p>2021年度は、会としての事業も自粛ということで実施しなかった。</p>

取組団体名	取組事例
和歌山イコール会議	<p>★ 和歌山イコール会議 第8期（R2.10～R3.9）会員総会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン（Zoom）参加及びりいびる会議室 A（和歌山市）のハイブリッド開催。会員 43 名出席（11月23日） ・第7期の事業・決算の報告と第8期の事業・予算の計画、運営委員の改選を承認した。 ・コロナ禍での開催であり感染対策を徹底した。また、会場参加者にはオンライン参加の映像をプロジェクター上映し、一方、オンライン参加者には会場参加の様子を携帯電話の Zoom で撮影し、オンライン画面の1コマで見ることができるようにし、機器のない中でも一体感を持てるよう工夫し開催した。 <p>★ 総会記念事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ コロナ禍のため、事業実施を見送った。 <p>★ 役員・運営委員会</p> <p>オンライン開催を2回行い、2月の開催では、スローガン「イコール会議は活動を止めない！」を決議し、低調となりがちな部会活動にオンラインを積極的に活用していくこととした。また、オンライン活用に向けて、事務局が県 NPO センター主催のセミナーに参加し学習した。</p> <p>★ 部会・ブロック会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ コロナ禍における活動となり、オンラインでの活動が中心となった。また、オンライン参加を進めるための「ネットおしゃべり会（兼 Zoom オンラインお試し練習会）」を2回開催した。 <p>①地域づくり部会 男女共同参画による住みやすい地域をめざして活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い地域づくりをめざし、防災部会と連携し第7回防災セミナーin 和歌山（令和3年6月27日）の開催むけてオンライン開催の部会で協議し、取り組んだ。 <p>②防災部会 災害時や復興時における男女共同参画による取組が進むことをめざし活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害と女性の問題を考えるきっかけづくりや災害時の県内女性のネットワーク構築にむけて毎年開催している災害時の食事作りなどは、コロナ禍のため見送ることとした。 ・部会をオンラインで開催し、第7回目は県内全域を対象にしたオンラインセミナーを開催することとし、被災後の生活に視点をあて、国や自治体による多様な生活再建にむけた支援制度について学ぶことを決定し、その準備に取り組んだ。 <p>③働き方部会 男女共同参画のもとに女性が活躍できる社会・職場をめざして活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会をオンラインで開催し、コロナ禍における働き方の問題点等について意見交換をした。 ・女性の活躍やワーク・ライフ・バランスの充実に向け、男性の家事・育児参加への意識改革を促進することを目的に開催されたパネルディスカッション「パバママサミット」（東京都主催）の YouTube オンデマンド配信を、オンライン開催の部会で共有（視聴）し、意見交換を行った。 <p>④子育て・介護環境部会 女性が専ら担うことが多い子育てや介護での男女共同参画をめざして活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く女性応援リーフレット（保活編）ほかの配布活動に取り組んだ。

取組団体名	取組事例
<p>和歌山イコール会議 (つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン・トークイベント「高濱正伸×葉一×茂木健一郎×小幡和輝 これからの時代を生きる子どもたちに学んでほしいこと」(YouTube ライブ配信)を各自視聴し、不登校問題について考える機会となった。 ⑤暴力防止部会 女性に対する暴力の根絶をめざして活動した。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年参加している人権フェスタ(和歌山ビッグホエール)の2020年度の開催は、コロナ禍で中止となり、部会でのブース出展ができなかった。 ・性暴力を許さない社会、誰もが安心して安全に暮らせる社会を目指して全国に広がった街頭抗議活動「フラワーデモ」のスタンディング活動に変えて、暴力防止部会のTwitterを立ち上げ、毎月11日Twitterによるフラワーデモとして発信した。また、杉田水脈議員の発言に対し抗議を表明した。 ・DV加害者構成教育プログラム全国ネットワーク講演会「DV加害者放置したままでいいですか?第4弾~DV加害者(更生教育プログラム参加者)が気づきを語る~」(オンライン開催)に参加した。更生教育プログラム参加者(男性加害者)の体験談では、更生プログラムの必要性を強く感じた。 ⑥多様な生き方応援部会 多様な生き方や活躍を知り学ぶことによる女性のエンパワメントをめざし活動した。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、県内の地域で活躍する女性や特色ある場所などを訪ねるフィールドワークなどを行い、様々な取組や考えなどをお聞きし、気を戴いてきたが、コロナ禍で現地へ出かけることが出来なかった。 ・コロナ禍においてどのような活動ができるか、オンラインで部会を継続的に開催し、終息後を見据えて見学先の情報収集などをおこなった。 ⑦地域ブロック会議 地域ごとの課題解決を目指して活動した。 <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市内の”りいびる”を拠点に開催される各部会は、遠方からの出席が大変なことから、会員の住居地で下記の4ブロックに分かれて、地元で話し合う「地域ブロック会議」を開催していたが、コロナ禍のため開催が殆ど出来なかった。 ・部会活動にブロックからも参加して、活動に変えた。 <p>〈各ブロック会議の主な開催場所〉 和歌山ブロック：県男女共同参画センター 紀北ブロック：紀の川市役所7階ラウンジ 紀中ブロック：有田川町交流センター 紀南ブロック：田辺市男女共同参画センター</p> <p>★ その他(参加等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県男女共同参画特別公開セミナー6/18(講師：上野千鶴子さん/社会学者・東京大学名誉教授) ・「関西の女性防災士をつなぐ講演会」10/25(オンライン) ・「2020 NGO 日本女性大会」11/8(オンライン) ・女性活躍企業同盟講演会 3/22(講師：住田裕子さん/弁護士) ・「使ってみよう! Google ドライブ講座」3/24(県NPOセンター主催、オンライン)

取組団体名	取組事例
一般社団法人 和歌山県農業会議	<ul style="list-style-type: none"> ★ 女性農業委員・農地利用最適化推進委員登用促進に向けた各市町村農業委員会への働きかけ <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度農業委員及び農地利用最適化推進委員等研修会資料において、他府県の女性農業委員・農地利用最適化推進委員が活躍した事例を研修資料に掲載し、全農業委員・農地利用最適化推進委員に配布した。 ★ 令和2年度（第16回）女性の農業委員会活動推進シンポジウムへの参画 <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）全国農業会議所、全国農業委員会女性協議会が主催するオンライン研修会へ、県内の女性農業委員及び農業委員会事務局職員とともに参画した。
わかやま楽落会	<ul style="list-style-type: none"> ★ 毎月のワークショップでの男女共生についての研修 <ul style="list-style-type: none"> ・女性出演者の参加拡大と、出演者への登用 ・女性、男性協力してのワークショップの運営 ・女性、男性協力しての寄席の企画
特定非営利活動法人 和歌山eかんばにい	<ul style="list-style-type: none"> ★ 男女共同参画推進に関わる啓発等活動事業（令和2年4/1～令和3年3/31）：「和歌山県男女共同参画センター“りいびる”一部委託事業」受託 ★ 男女共同参画推進に資する人材育成事業 <ul style="list-style-type: none"> ・エンパワー・エンカレッジ研修会「アサーティブで自分の気持ちを伝える」 令和3年3月28日（参加者：8人 Zoom活用のオンライン研修会） 講師：谷水美香さん（ヒューマン・トータルバランスサポート「りんと」代表 アサーティブコミュニケーショントレーナー） 自分の考えや意見を相手に正しく、しかも相手も尊重した言い方で伝える、アサーティブコミュニケーションの研修。新型コロナウイルス感染拡大防止のため一般参加は募らずNPO内の研修として開催 ・「おさえておきたい、離婚にまつわる法律と戸籍の知識」令和2年11月14日（参加者：11人。和歌山県男女共同参画センター会議室A） 離婚を考えている人に知っておくと役に立つ法律的な知識と、離婚により発生する子供を含めた戸籍や氏の知識を得る講座を開催した。予めそれらの知識を知っておくことで、調停に臨む際に役立ててもらったり、スムーズに新しい生き方に進めるために活用してもらうことを目的とした。 ★ 和歌山県男女共同参画センター“りいびる”提案事業あなたに男女共同参画『あなたの人生に潜む「女らしさ」の呪縛から自由になろう』開催 令和3年2月11日（ハイブリッド形式。会場参加者22人、オンライン参加者12人、計34人） 親しみやすいプリンセスストーリーを題材にし、自分の中に潜む女らしさの縛りに気づき、より自分らしい生き方を考える機会となるように開催 ★ 人権尊重意識の更なる醸成にかかわる事業：ニュースレター発行 令和2年12月発行（200部）
特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO	<ul style="list-style-type: none"> ★ コロナウィルスの影響下での活動 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月から6月15日まで、「つどいの広場 ほっとルーム

取組団体名	取組事例
<p>特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO (つづき)</p>	<p>ぐるんぱ」を閉所することになり、つどいの広場が地域にもっていた役割が果たせなくなった。閉所中の「つどいの広場」にはスタッフが常駐し、電話やメールで相談を受けることでしんどい思いをしている母親の支援を行った。閉所中、電話やメールでの相談が相次いであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベビーシッター事業「きのくにっこ」を活用し、午前午後各一組限定の無料の預かり保育を行った。(5/20~6/12) のべ11組の利用があり、保健センターや子ども総合から紹介された方もいて、しんどい状況を少しでも支えることができたのではないかと思います。 ・きのくに子どもNPO主催でのそと遊びの会を行った。(幼児さんから小学生対象) <p>幼稚園、小学校が一斉に休みになり、家にもってストレスが溜まっている大人、子どもに対して少しでも息抜きができるようにと考えて行った。密にならないように気を付けながらも、たくさんの親子の利用があった。そと遊びの際に親から相談を受けることもあった。コロナウィルス対策が大きな問題となったが、どんな場合にも親と子が孤立しないよう居場所を確保することを考えて実施した。</p> <p>★ 地域子育て支援拠点事業 「ほっとルームぐるんぱ」の開設(和歌山市委託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 ・子育てコーディネーターによる子育て相談・援助の実施。地域の子育て関連情報の提供 ・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施 <p>6月中旬からの「ぐるんぱ」再開に当たっては、いつ来てもいつ帰ってもいい、コロナ禍の中だからこそ不安なことや困っていることなどを出してもらいたい、そのために人数や利用時間の制限はしない「つどいの広場」を開設した。</p> <p>「かみしばい」や「わらべうた」など、これまで行ってきた企画を感染症対策しながら続けて行った。しかし、「ほっとちゃん」や「ぐるんぱメール」など、集まって会議をし、母親のエンパワメントにつながっていた活動は「密な会議」や回数を重ねることで信頼関係を築くことが不可欠であるため、断念せざるを得なくなった。</p> <p>「そと遊び」は、積極的にいった。五感を使って自由に遊ぶ楽しさや気持ちよさを体感できるよう取り組んでいる。ネットやスマホ環境から離れて、自然の生き物との出会いや遊ぶことの大切さをママ自身にも感じてもらえること重要だと考えている。コロナウィルス感染症の問題から夏の水遊びはできなかった。</p> <p>Instagram を使っての情報発信を新しくはじめ、情報が伝わりやすくするようにした。</p>

取組団体名	取組事例
<p>特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO (つづき)</p>	<p>・『舞台観賞、はるなつあきふゆ あそぼあそぼ』 1月27日 河西コミュニティセンター 参加者 50名 客席を広く取り、検温消毒に気を付けて、生の舞台鑑賞を行った。民族芸能アンサンブル若駒座の二人の演じ手がわらべうたを歌ったり、和楽器の演奏で楽しませてくれた。子どもたちがキラキラした目で一心に見いている姿が印象的で、思わず舞台に出て行ってしまいう子達もいて、一緒に巻き込んで作り上げた舞台だった。親は小さな子どもを連れていると演劇などは遠慮しがちになるが、そんな親子にこそ見てもらえるものを作りたいという演じ手の思いが伝わり、見ている人たちも心がジワリと暖まり優しい気持ちになる作品だった。</p> <p>・『プレママプレパパ企画』（和歌山県男女共同参画センターりいぶる助成事業） 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない子育て支援が全国的にも重要視されている。4人に1人の母親が産後うつと言われている。出産後の母体はホルモンバランスが大きく崩れ、その上夜泣きや授乳など、慣れない子育てに身も心も疲れ果てている。多くの母親は自分のことをダメな親だと責めてしまい、特にコロナ禍の影響で、出産時の立ち合いや、お見舞いが制限され、里帰り出産も難しく、大変な産後を親だけで抱え込んで苦しんでいる。外出をためらいがちな産後2、3ヶ月までの時期にこそ、気軽に相談できる場所があることを、ママにもパパにも出産前から知っておいてもらいたいという思いから「プレママプレパパ支援企画」を行った。</p> <p>① 2020.11.22 マタニティーフォト 4組 ② 12.6 助産師さんによるリモート講座 1 6人 ③ 2021.1.31 助産師さんによるリモート講座 2 7人 ④ 2.7 エコー写真のスクラップブック 5人 ⑤ 3.7 手形アート 14人</p> <p>助産師さんによるリモート講座では、助産師さんの話を聞いた後は自由なトークの時間も設けた。二人目出産の先輩ママの参加もあり、参加者主体の交流ができた。パパも一緒に聞くことができ、産前産後の母体の変化や生活の変化について少しイメージを持ってもらえた。</p> <p>手形アート等のワークショップは3回開催。夫婦揃っての参加も多く、先輩ママパパの赤ちゃんを抱っこしたりミルクを飲またり、経験談を聞いたりなどの交流も自然に生まれた。感想にも「出産前に話を聞けて良かった」「ぐるんぱのような、困ったときにいつでも集える場所があることを出産前に知れて良かった」「コロナで外出が不安なこの時期にリモートで外の世界と触れ合えて良かった」などの声があった。</p> <p>★ パパの子育て支援 子育てパパの集まり（イクメンPaPaの会）の会議を月1回定期的に行う。開催、パパ主催の企画を立案したり、子どもたちの遊びの企画の時に、主体的にかかわりを持てるように準備したり「遊び」を通じて子育てに積極的にかかわる父親を増やす活動を継続して行っている。 今年は、コロナウィルスの影響もあり、思った企画が行えなかったが、ウォークラリー、高学年キャンプ、凧上げ大会、海遊び、ソフトバレー大会などできる限りの活動を行った。 パパ同士のつながりをより一層深め、新しいメンバーの獲得を目指し、取り組んでいる。 定例会ができないときはZoomなどを取り入れて、リモートの会議</p>

取組団体名	取組事例
<p>特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO (つづき)</p>	<p>も行えるようにしている。</p> <p>★ 和歌山市ファミリー・サポート・センター(和歌山市委託事業)</p> <p>身近に助けを得られる、頼れる人がいるという安心感や心強さをもたらす子育て支援として、貴重な存在である。昨年度から続くコロナ禍の中でも、センター事業は継続し、援助活動においても会員の協力を得て続けることが出来た。また、コロナ禍の中で行ったスタッフになるための講習会に例年以上にたくさんの受講申し込みがあった。この状況の中で、「何か人の役に立ちたい」「地域のために何かしたい」という人が多くなっていると感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てを援助してほしい人と子育てをサポートしたい人をコーディネートし、地域で安心して子育てできるようサポートする会員組織の運営(令和3年3月末、全会員数 1444人) ・病児・緊急対応強化事業 子どもの病時病後時の保育に対応している。 ・ファミリー・サポート・センターは一時保育をコーディネートする役割だけでなく、子育て家庭のセーフティネットとしての役割が大きくなっている。地域での相互援助活動の枠に入りきらない継続的援助、専門的な援助が必要なケースが増えている。行政機関や民間の支援施設等と連絡を取りながら可能な支援情報を提供するなどして、相談を受けている。 ・講習会の開催(年3回)。会員登録(スタッフ会員・提供会員・両方会員)を希望する市民に対し、子育て支援の意義や役割を理解し、具体的スキルを学ぶ講座(24時間)を実施。サポートする会員の増加に努めている。講座は、子育て中の母親の受講も増えており、受講をきっかけに仕事や社会的活動を始める人もいて、母親のエンパワメントにつながっている。 ・交流会 サポートする会員のスキルアップのため、交流会を実施。普段顔を合わせることの少ない「スタッフ会員」「提供会員」が活動内容について気になることを話したり、意見交換する機会を作っている。 ・地域交流会 地域にファミサポを広め、会員同士交流できる場として「ファミサポキャラバン」開催。ファミリー・サポート・センターを知ってもらい、身近に感じてもらうきっかけにもなっている <p>★ ベビーシッター「きのくにっこ」「きのくにっこ mini」</p> <p>小さい子どもを持つ家庭を支援するために、必要に応じて一時的保育を提供している。</p> <p>今年は、コロナの影響でしんどい思いをしている人の支援のために無料の預かりを行った。(前出)</p> <p>母親、女性対象の講座や勉強会、演奏会などの時の一時保育(グループシッター)を受けているが、今年度の講習会は激減した。グループシッター 3件のべ15回実施</p> <p>★ 「養育支援訪問事業・家事援助業務」(和歌山市)</p> <p>「和歌山市母子家庭及び寡婦、父子家庭生活支援員派遣事業委託」を受託。支援が必要な子育て家庭に対して、支援員を派遣し、行政との協力の下に子育て家庭を支えている。支援が終了したあとも、つどいの広場へつなぐなど地域での子育て支援と継続してかわることを意識的に取り組んでいる。</p>

取組団体名	取組事例
<p>特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO (つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★ 児童発達支援 親と子の広場・アン、ポコ <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長・発達に不安のある乳幼児を対象に、リズム遊びお絵かき、外遊びや散歩など遊びを楽しみながら五感（見る・聞く・触れる・におう・味わう）を刺激し、丈夫な体作りと豊かな発達を保障することを目的に活動している。保護者同士がつながりあえるよう親の会、学習会を行っている。併行通所もおこなっている。 ・保護者で実行委員会をつくり、遠足や製作、ごっこあそびなどの行事を行っている。自分たちがしたい事、子どもが楽しめることなどそれぞれが考え、会議を重ねている。みんなで作り上げたことで達成感を感じ、自信となり、エンパワメントにつながっている。 障害者支援課など行政との話し合いの場にも、保護者が積極的に関わっている。 ★ 子どもの居場所「チャティーもあ」 <p>毎週土曜日に子どもの居場所を開催。絵本の読み聞かせ、読書活動、アート制作、外遊びと様々な活動を行っている。土曜日仕事している家庭の子どもの「学童保育」としての役割も持っている。様々な個性・特性を持つ子どもたちが、話し合いをしてやりたいことを決め、実行している。集団での活動が子どもたちの自主性や協調性を育てている。プレーリーダーが丁寧にかわることで、お互いに違いを認め合い、尊重し合うことができるような集団となることをめざして活動している。</p> ★ 長期休暇学童保育事業 「あみはうす」 <p>春・夏休みに家で留守番している子ども対象に、長期休暇にしかできない遊びや集団での遊びを体験し、仲間づくりができるような学童保育を実施。ゲームやYouTubeが子どもたちの生活に大きな影響を与えているが、ネットを離れて遊びあう居場所を作っている。仕事で一日家を空けている保護者が安心して子どもを預けられる場を提供した。</p> ★ 子どもに関わる人たちの学習交流、人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会「性」について子どもとどう向き合いますか？」3月21日開催 ★ 「子どもの生活支援ネットワーク こ・はうす」 支援 <p>特に地域で孤立しがちな「母子家庭・父子家庭」や困りごとを抱える親子の支援を「子どもの生活支援ネットワーク こ・はうす」と協力し、情報を共有しながら行っている。</p> <p>居場所での集まりが難しい時はフードパントリーを実施し、親子を支援している。</p>
<p>一般社団法人 ガールスカウト和歌山県連盟</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★ 自然体験、国際交流、ボランティア体験などを通じて、考える力、行動する力、協調性を思いやる心、判断力を養い将来にあらゆる状況の時も、自分で判断し、自他の幸福を願って行動できる女性の育成。 <ul style="list-style-type: none"> ・今年はオンラインでの繋がりを工夫してハリケーンで困窮しているホンジュラスへの支援や団によってはアフガニスタンの女性支援のためにランドセルを送るプロジェクトに参加。世界での女性の立場を理解する機会となった。 ・年代別のキャンプの実施（野外技術習得、災害時に役立つ救急法や調理実習）など一部は中止したが、日帰りプログラムに変更して実施した。 ・「ダメ・ゼッタイ」薬物乱用防止普及キャンペーンは中止となった。

取組団体名	取組事例
一般社団法人 ガールスカウト和歌山県連盟 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省委託事業としてコロナ下での野外親子体験を実施し多くの一般の親子の参加があった。 ★ 日本連盟主催オンラインイベントへ参加 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生年代 「レンジャーオンラインミーティング」 テーマ 「～our voices will change the world～」 ・高校生年代以上 「オンラインイベント」 テーマ 「女子大生の声からジェンダーを考えよう」 <p>以上のようなイベントをとおして ジェンダー平等を実現していくためには、まだまだ根強く残るジェンダーに関する固定観念にこだわらず、自分のなりたい未来を少女と女性が描けるようにすることを目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 中高生年代が近畿地区のオンラインイベント「近畿地区ソアリング」に参加 <ul style="list-style-type: none"> ・対面での開催が難しいため 近畿6府県がオンラインでつながり話し合いを深め、その中から感じたことを行動に起こしていった。 テーマ「平和ってなんだろう」 <p>和歌山県の中高生はその中でもコロナ差別について取り組み話し合いを深めた。 コロナ差別はもちろんコロナ禍での女性の立場など資料を集め現状の把握をして、差別のたいし、声を上げるため、ポスター作製やシトラスリボンづくりを推奨したり、コロナ禍に限らず、皆が平和に暮らせる社会を目指すために行動を起こしていきたいと継続している。</p>
特定非営利活動法人 チーム紀 伊水道	<ul style="list-style-type: none"> ★ 和歌山県内での交流会実施 (和歌山市:4月/6月/8月/9月/12月/2月 橋本市:7月/9月/3月/コロナウイルス感染状況により中止…5月/11月/1月 田辺市:7月/11月・御坊市:9月) ★ イベントへのブース出展、参加、企画 <ul style="list-style-type: none"> ・わかやま愛ダホ！2020(8月:和歌山駅地下 わかちか広場のモニタービジョンを活用した啓発活動) ・レインボーフェスタ和歌山 2020(11月:和歌山城砂の丸広場 ブース出展を通じた啓発活動) ・ふたかわ超学校 音楽室シネマ(12月:旧二川小学校/田辺市中辺路町 映画『愛と法』上映後のアフタートークを通じた啓発活動) ★ メール相談 性自認や性的指向に関するメール相談を随時実施。 ★ 講師派遣による講演活動と講座の企画/開催 <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市の高等学校での教職員研修 ・和歌山市の高等学校での生徒向けの講演(高校2年生) ・橋本市女性相談員養成講座での研修 ・和歌山労働局での研修(和歌山市) ・和歌山県内の看護師・助産師向けの研修(和歌山市) ・和歌山県青少年・男女共同参画課 地域若者支援連絡会議での研修(オンライン配信) ・新宮/東牟婁圏域自立支援協議会での人権研修(太地町) ・岩出市男女共同参画推進講座(市民向けのオンデマンド配信) ・和歌山県男女共同参画センター「みんなに男女共同参画」提案事業(チ

取組団体名	取組事例
特定非営利活動法人 チーム紀伊水道 (つづき)	・チーム紀伊水道 企画・運営) ～同性パートナーシップ宣誓証明制度について学ぶ～「和歌山でパートナーと一緒に住もらよ」(和歌山市) ・紀の川市教育委員会主催 人権学習講座(コロナウイルス感染状況により中止)
和歌山県交通安全母の会連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ★ 通常総会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・県内 24 市町村の交通安全母の会が集まり、交通安全功労者に対する表彰を行うとともに、令和元年度事業報告・決算報告、令和2年度事業計画・予算審議、研修会を行った。 ★ 高齢者世帯訪問活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室などに参加できない高齢者宅を選定の上、交通安全母の会会員が実際に高齢者宅を訪問し、交通安全指導を行うとともに反射材等の啓発物品を配布した。(3,095 世帯訪問) ★ 募金活動への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・県内ラジオ放送局主催の募金活動に参加した。 当該募金活動は、目の不自由な方を補助する「音の出る信号機」を設置すること等を目的に行われているもので、令和3年3月末時点で同信号機の設置率は全国1位。 ★ 園児等に対する交通安全教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・県内各地の幼稚園や保育園、小学校で行われる交通安全教室に参加し、正しい横断歩道の渡り方や自転車の乗り方などを教育した。 ★ 通学路等における見守り活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・通学路等において、通学する小学生や買い物に出かける高齢者の見守り活動を行った。 ★ 各季の交通安全運動行事への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・各季の交通安全運動の際に県内各地で行われる啓発活動に参加し、啓発物品を配布するとともに交通事故防止を呼び掛けた。
和歌山県生活研究グループ連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ★ 機関誌の発行(年1回) ※例年取り組んでいる「女性農業者の積極的な経営参画に向け、各地域でリーダー研修会や経営研究会等を開催」と「女性・高齢者グループ等の活動評価とPRのため、講演会等への積極的な参加」については、新型コロナウイルス蔓延防止により、開催することが出来なかった。
和歌山県婦人団体連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ★ 人権を考えるつどいを開催 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年11月16日和歌山県民文化会館で開催し、コロナ禍により人数を制限して約50名の婦人会員が参加しました。 講演テーマは「皆さんも知ってみませんか?こころのサポーター(ゲートキーパー)について」で、和歌山市保健所「こころの健康対策グループ」のお話を聴きました。
和歌山県母と子の健康づくり運動協議会	<ul style="list-style-type: none"> ★ 各支部(振興局単位)における活動 <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健に関する研修会 ・親子教室等の開催 ・家庭訪問等の活動時に育児支援に関する啓発リーフレットや、感染予防対策の意識付け及び活動啓発を目的に薬用ハンドジェルを配布した。

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
和歌山県和裁協会	<ul style="list-style-type: none"> ★ ものづくり魅力講座 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海南市立巽中学校 2年生 48名（11月9～10日） 日本手拭いを使ってあずま袋を製作した。 48名の生徒全員に着物を着る体験をもらった。 着物をたたむ体験をもらった。 ・ 和歌山市立中之島小学校 5年生 38名（12月1日） ダブルガーゼを使ってまいマスクを製作した。 ★ 第17回老人介護施設訪問（12月10日） <ul style="list-style-type: none"> ・ 和歌山市サービス付き高齢者向け住宅 風土記の丘 紀風苑 綿入れちゃんちゃんこ 22枚贈呈